

第4分科会 教科別の指導 音楽

楽しさから達成感につなげる音楽の学習を目指して

～担任の音楽専科の効果的な連携について～

指導・助言 特別支援教育課 指導主事 若月 雅子

実践提案 狭山市立山王小学校 丸泉 早苗

活動報告 県立特別支援学校音楽部会

1 「主体的に音楽に関わり、豊かに表現できる力を育てる音楽教育」の実現に向けて

特別支援教育における「音楽」の授業を展開する上で重要な視点は、「音楽的な見方・考え方」を働かせて学習に取り組むことで、「生活の中の音や音楽に興味や関心をもって関わる資質や能力」を育成することであり、学習指導要領には段階別に目標が示されています。

「資質や能力」を育成するためには、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行うことが重要であり、児童生徒が「主体的」に取り組めるよう、自らの学びや変容を自覚できる場面を設定したり、「対話」を通して自らの考えを広げて、協働して音楽活動をする楽しさを味わったり、音や音楽を通してイメージや感情と関連づけられるような「深い学び」の視点を持った授業を展開することが大切です。一方で、音楽は一斉に学習に取り組む場面が多いことから、児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた効果的な学習の展開に努めることも必要であると考えます。

これらの視点を踏まえ、児童生徒一人一人が感性を働かせて主体的に学習に取り組む経験を積み重ねることで、思考や感情等を豊かに表現できる力が身につけられることと思います。

2 提案実践について

(1) 実践を通して（優れた点とアドバイス）

「楽しさから達成感につなげる音楽活動」を目指した本実践は、児童の実態を踏まえ、音楽を通して自己表現の意欲を伸ばし、自己実現に繋がるとも優れた取組であると感じます。今回は取組の中でも特に素晴らしいと感じた3点について述べます。

1点目は、担任や介助員と連携して授業を展開している点です。複数の教職員が授業を行う場合は、教職員間で学習目標や内容、一人一人の教育的ニーズに応じた指導や支援の方法を共有した上で、連携して行うことが重要です。本実践では、連携して授業を展開する上で、授業時の「専科・担任・介助員の基本的な動き」が明確に整理され、示されている点も素晴らしく、児童の意欲的な姿勢の向上に繋がる指導であると考えます。

2点目は、達成感を味わわせ自己肯定感を高める授業を展開している点です。専科の観点から、学習目標に対して達成できた点や評価できる姿勢をその場で褒めることは、児童の自己評価に繋がり、学びの姿勢に大きな影響を与えると考えます。また、実態に応じて教材を工夫した点も素晴らしく、「一人でできた」という経験の積み重ねが自己肯定感を高め、進んで取り組もうとする姿勢に繋がると考えます。

3点目は、校内音楽会や市内音楽会等の発表の場を設定した点です。多くの人から褒められたり、他者の演奏を聴いて感動したり等の経験は、「主体的・対話的」な活動であり、児童の自己表現の幅を広げることに繋がります。発表に向けて必要な視点は、児童の実態把握です。一人一人が活躍できる場を考え、目標を設定した上で、スモールステップで授業を展開することにより、これまで以上の活躍を目にすることができるかもしれません。

よりよい授業を展開するためには、授業の中で一人一人が活躍できる場を設定し、教員間の動きを考えた上でその内容を指導案に示すことが大切です。指導案は一人一人の教育的ニーズに応じた指導等を教員間で共有するツールとしても活用できます。ぜひ、この視点も含めて作成されることを望みます。

(2) 実践者・部会の皆様へのメッセージ

音楽部会の先生方は、一人一人が優れた音楽観を持ち、好事例を共有しながら日々の授業実践に生かしていることが、今回の報告から感じ取ることができました。今後の益々の活躍を期待いたします。

